【様式①】令和6年度　学校評価書（小・中 特別支援）

学校名　岐阜市立岐阜西中学校

校長名　　寺田　幸広

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	・郷土の歴史・人物・自然等に興味をもち、地域の人を中心とした研修において、郷土愛と見識を深める。 ・教育DXを推進し、全ての教科において仲間と共に学び、地域の人・もののとの関わりを位置付けた教育課程の工夫。	B	・学校の教育目標をもとに、各学年の総合的な学習の時間のテーマから、地域の中でそのテーマに詳しい方に来校していただき、学習を進めることができた。 ・ロイロノート等を利用して互いの意見を交流し,学びを深めることができた。地域の地形や水害の起こりやすい場所などタブレット端末を活用して調べることができた。	・地域の人材をよく活用して学習していると感じる。今後は、さらに多くの人材を活用できるよう工夫していってほしい。 ・保護者は、子供たちがロイロノートを活用して様々な学習に取り組んでいるところをよく見かける。一方で、地域の方は現在の教育DXについて知る機会がない。そのような機会があると、地域の方からも学校教育について意見が聞けると思う。	・学校運営協議会、支援推進委員会の協力を得ながら地域の人材バンクリストを作成し、必要に応じて依頼できる体制を構築する。 ・ICTを活用する場面は増えてきたので、互いの考えを交流する中で自分の考えを広げたり、深めたりできるよう授業の進め方を改善していく。また、総合的な学習の時間を中心に、ICTを活用した情報収集や意見交流をしているが、今後は地域への情報発信にも活用していく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	・ボランティア活動に参画できるよう支援推進委員会と学校で話し合い、生徒が積極的に地域の人・文化から学ぶことができる。 ・学習、ボランティア、いじめ未然防止の取組を小中で連携して進める。 ・これまで起きている事案を通して、相手のことを思いやることの大切さや、命の大切さをいじめ対策研修を通して学び、実践する。	B	・支援推進委員会、地域の施設と連携を密にし、生徒の考え、主体性が生きる活動を計画・実施することができた。 ・いじめ未然防止については、ピンクシャツデーやピンクピースウィークの活動を実施し、小学校、地域、施設にも昨年度に引き続き、働きかけることができた。 ・生徒については、FOR温の活動を通して、仲間の良さを知り、いじめをなくす活動をし、教師は、子どもの良さを他の生徒・保護者に広めるように努めた。	・この3年間で、岐阜西中学校学校運営協議会、支援推進委員会の機能が改善されてきており、高く評価できる。規約を改正してから一歩一歩改善されてきているので、地域からも学校の様子が分かり、提案をしたり、一緒に活動したりすることができてとてもよいと聞いている。今後は小中の連携と地域の各施設、家庭とどう連携をしていくのかを一緒に考えていきたい。 ・地域行事等に参加する生徒からは積極性が感じられてよい。しかし、行事を増やすと学校職員や地域の担当者の負担が増すことが気になる。 ・「いじめ撲滅の活動」は、とてもよいことだと思うので、今後も一緒に活動をしていきたい。	・これまで学校運営協議会と支援推進委員会を同日に開催していたが、協議内容が異なることから、タイムリーな協議が行えるよう開催方法を柔軟に改善していく。 ・1年間の地域行事や地域と連携した学習について、4月の段階で示すことで生徒が見通しをもって主体的に参加していけるようにする。 ・みんなが安心して暮らせる地域づくりに貢献できるよう、いじめや差別の未然防止に関わる取組をさらに推進する。具体的には、中学校から一方的に働きかけるのではなく、児童生徒やPTA、さらに地域の方と意見交流できる場を設け、共に考え、活動していけるようにする。
あたたかさと働きがいにあふれる学校づくり	・本校職員が働きがいをもち、生き生きと活躍のできる職場づくりの推進。 ・生徒と向き合う時間を作るためのICT活用。 ・「ここタン」や「いじめ防止のためのアンケート」を活用した教育相談体制の確立と検証。 ・お互いに相談し合える職員集団。	B	・教育課程を工夫し、職員がお互いの年齢差、経験差を踏まえ、学年部、指導部会、教科部会の中で切磋琢磨できるよう、話し合いの時間を確保した。また、各自の考え、独自性を発揮しやすいように工夫することができた。 ・計画的な研修とともに、時世に応じた研修を昨年に引き続いて位置付けた。	・教員が学年、教科ごとのチーム力で相談・協力して生徒の学習、生活、部活動などの指導にあたっていてくれることが、生徒達の会話や表情から感じられた。 ・生徒と向き合うための時間を確保するためにICTをどのように活用しているのか、実際の姿を見てみたい。 ・「いじめ防止アンケート」実施後の対応については聞いているが、日々の取組である「ここタン」の活用の成果についても話を聞きたい。	・教員として授業力を高めることが、生徒にとって「わかる」「できる」授業を具現することや、教員の自信にもつながる。そこで、校内研究の内容を学級集団の育成から、教科の授業研究に変更し、教科部会を中心に切磋琢磨できる場を設けていく。 ・職員が問題を一人で抱え込まず、適切に対応して解決していけるように、「チーム学校」としての支援体制を強化する。 ・「ここタン」の活用事例について周知していく。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	・「危機管理マニュアル」に基づいた「いじめ防止研修」「命を守る訓練」の研修及び日々の交流。 ・地域と連携した防災教育の推進（学校運営協議会・支援推進委員会との連携）。	B	・地震、火災に加え、水害を想定した垂直方向訓練を今年度も実施することができた。また、保護者への引き渡し訓練も実施できたが、小中合同で行うことができなかったので、来年度は実施したい。 ・防犯については、地域の方々の多くの目があるため、大きな事件はないが、連携して防犯体制ができるように検討実施していきたい。	・この地は水害リスクが高いので、保護者だけでなく、学校側も意識高く、防災教育に取組んでいただけた。 ・生徒自らが災害時に考え、行動できる姿になってくれるよう、今後もご指導いただきたい。 ・体験することが大切であり、今後地域の中で、どのように活躍できる生徒になっていくか一緒に活動し、もしもの時に活躍できるようにしていきたい。 ・西中、七郷小、合渡小の三校で、一緒に取り組む必要があるのではないかと思う。 ・防災意識を高めるため、私たちも生徒と一緒に何が必要か、どんな活動が有効なのかを考える必要がある。そして、生徒の力を地域の中で発揮してもらいたい。	・今年度初めて複数の関係機関と連携した防災教育を土曜授業で行った。次年度は、地域の各種団体とも連携して行えるよう、支援推進委員会と協力して企画、運営できるようにする。 ・防犯に関する指導では、薬物乱用防止教育に加え、闇バイトの未然防止に関わる学習を警察など関係機関と連携して行っていく。 ・今年度、命を守る訓練については、火事、地震に加え、水害を想定した垂直避難訓練を行った。より実践的な活動となるよう、専門家の意見も反映させ、内容を改善して実施していく。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	・ICTを活用した「個に応じた学び」の環境整備と協働学習のための実践事例の検証。 ・ペーパーレス化の推進と、デジタルツール活用研修の実施と運用。	B	・ICTを活用した授業環境が整えられ、仲間と協働した学びを推進することができた。各教科や各学級の活用方法について学び合うことで、いろいろな学習形態ができ始めた。 ・通信は、PDFにしてタブレットやスマート連絡帳で配信、アンケート・生徒会選挙等についてはFORMSで、実施することができた。	・保護者として学校がペーパーレス化を推進していることを実感できる。 ・スマート連絡帳の活用については、配信時間も保護者に配慮されており、評価できる。	・個別最適な学びと協働的な学びでのICT活用について授業改善を進めていく。 ・タブレットを活用して意見をまとめる学習活動が増えた一方、実際に文字を書くことが大幅に減った。学習内容を踏まえ、バランスのとれた活用をしていく。 ・保護者への配付物や会議資料については、さらにペーパーレス化を推進していく。

HPアドレス：　https://gifu-city.schoolcms.net/gifunishi-j/